

## 歩行者と緑地帯との調和を目指したまちづくり

### 1.道路における自然空間

植樹帯とは、歩行者にとって道路空間で唯一自然に触れ合える場所である。ハードな人口構造物である道路に、ソフトな自然が加わる事で道路空間に調和がもたらされる。まちが人口構造物ばかりの現代において、緑地帯は重要な空間だと私は思う。そこで、緑地帯を中心としたまちづくりを考えていこうと思う。

では、まず歩くことで何が得られるのかを考えてみると、歩くという事は人間の運動の基本であり、健康に良いことが挙げられる。しかしそれだけではない。実際に道路を歩く際、私達は緑地帯の自然を見て季節を感じたり、様々な思索に耽ったりする事ができる。歩く際の自然との触れ合いによる精神的影響は大きい。現在特に高齢化社会である日本は、余暇時間の増大により歩くことを楽しみたいと考える人々が増えていくと考えられる。よって、これからさらに緑地帯は重要な物となってくる。

それ以外にも道路を形成する中で、緑地帯の果たしている役割は大きいと言える。

### 2.緑地帯の現状

では、実際に道路空間というものを考えた時に、道路とは果たして綺麗であるだろうか？という疑問が浮かぶ。私は、綺麗な道路をイメージして思い浮かぶ場所は少ない。それはどうしてかとよく考えてみると、道路の緑地帯が既に手入れが届いていないからだと思う。具体的には雑草が生い茂ってしまっており、木々が枯れてしまっている。植樹帯が綺麗ではない事で「ゴミを捨ててもいいや」という意識でゴミが増えるという状況である。下の図1に示す。道路空間が綺麗でないことや、その現状がさらにゴミが増やすという悪循環が続いている。



図1：福岡市博多区（H18年7月末撮影）の緑地帯

【左】【右】：中央分離帯 木が枯れており、そこにペットボトル・空き缶が落ちていたり、プラスチックの板が割れて散乱している。

【中】：歩道側の雑草が生い茂っていて、多数のゴミ袋が落ちている。また、枯葉等が隅に溜まっている。

ではこれらの現状を踏まえ、これからの道づくりはどうしていく必要があるのだろうか？

これからは安心して安全を基本とするだけでなく、健康の増進のためにも自然と触れ合えて快適な道路づくりが必要となる。つまり質の向上が求められるのである。

#### 4. 緑地帯の多様化例（砂苔での緑化）

では具体的に考えていく事にする。歩いていて一番目に付く緑地帯が綺麗でなければならないと考える。現在の緑地帯は何度も言うように、手入れが行き届いていない。それは、手入れを行き届かせるにはお金が掛かってしまうため、なかなか綺麗な状況を保てないという事が原因に挙げられる。

現在の緑地帯は木で緑化している事でどうしても管理費用が掛かるため、違ったもので緑化してみてもどうかという事を提案する。

具体的な例として、環境に強い砂苔を利用してみてはどうだろうか？環境に強いことから、手入れもあまり必要なくなるので、木で緑化する場合とは異なりランニングコストが抑えられるのである。

砂苔とは、砂地など乾燥する場所に生息し、暑さや寒さに強いのが特徴である。よって、現在使い道の少ない中央分離帯にも生息させることができるだけでなく、砂苔を生やし緑地帯を敷く事で雑草が生えることがなくなる。道路に緑が増え、歩く人々の精神的にもプラスに作用すると考えられる。

写真2については実際に苔で緑化している場所の写真である。



写真2：福岡県春日市（平成18年5月末撮影）の緑地帯

【左】中央分離帯部分に苔で緑化している。

【中央】緑地帯の手前半分を苔で緑化している。奥の方は何も植樹していないので雑草が大量に生えてしまっている。

【右】苔をアップにした写真。緑色で綺麗である。

この写真より、苔で緑化した場合は緑でいっぱいとても綺麗だということが分かってもらえると思う。つまり、緑地帯の質の向上が見込まれるのである。

#### 5. 提案

これからの道路づくりに求められるものは、道路を利用する側に立って道路空間を設計するところが求められる。歩行者が、五感を使いながら思索に耽りつつ余裕を持って歩くことが出来るようになって欲しい。私は道路をただ単に移動のためだけに利用するだけでなく、人々が気持ちを落ち着かせたり安らぎを感じる空間として利用したくなるような場所となることを願う。みんなが、何気なく「散歩をしたい」「あの道を通りたい」思える道路がどんどん増えていくことが私の夢である。

そこで、道路で自然に触れ合える緑地帯が重要となってくるが、これからは木での緑化だけでなく、環境に強い苔を利用し緑地帯全体を多様化させてほしい。